

〔日本書紀通證八神武ハ〕十有二月ハ山ハ俗稱極月ハ亦此意ハ

〔萬葉集八冬雜〕紀少鹿女郎 梅花歌

十二月爾者沫雪零跡不知可毛梅花開含不有而

〔躬恒集〕玄はすのつもごりの夜なのおにを略歌

〔秘藏抄上〕十二月異名 十二月ハはすハ略 年よつむ月

〔莫傳抄〕十二月異名 暮古月 親子月 十二月

〔藏玉和詞集〕十二月異名ハ略ハ中ハ十二ハ鶯ハ 春待月 梅初月 三冬月

〔伊呂波字類抄天象〕閏月漢書云、以歲之餘爲閏、易曰、五歲再

〔尙書註疏二堯典〕帝曰咨汝羲暨和、共三百有六旬有六日、以閏月定四時成歲、傳、咨嗟暨與也、匝四時

曰、共一歲十二月、月三十日、正三百六十日、除小月六、爲六日、是爲一歲有餘十二日、未盈三歲、是得

一月、則置閏焉、以定四時之氣、成一歲之曆象、

〔和爾雅二歲時〕閏月ジュンゲツ 門玉モンヨク 杜預トコ 以門 王門オウモン 禮 陽餘ヨウヨ 通トウ 白虎 餘月ヨリツキ 二終ニシュウ 唐書 閏餘ジュンヨ 史 贏餘エイヨ 非

常月ジョウゲツ 公羊 叢殘ソウザン 傳デン 註 贏閏エイジュン 附餘フヨ 附餘フヨ 梁傳リョウデン 閏月ジュンゲツ 者 章閏シャウジュン 歸餘キジュ 章月シャウゲツ 備閏ビジュン 薜閏ヘクジュン 門中王

〔書言字考節用集二時候〕閏月ジュンゲツ 書言ショウゴン 大全ダイケン 積歲セキサイ 之餘ノシヨ 日爲

〔倭訓栞前編四〕うるふづき 閏月をいふ、閏は潤餘の義なれば、日本紀に潤月ともかけり、うる

ふどしといふも、西土に潤年と見えたり、天の運行、三百六十五度四分度の一にて、一年三百六

十日と立て、月に大小あり、過る六日を氣盈とし、不足の六日を朔虚とす、此過不足を合せ、十二日

三年積て、三十六日の餘りあるをもて、三年に一閏を立る、五歳に再閏、十九年にして七閏に及べ

ば餘分なし、是を一章といふ、